

輪ギクにおける赤色防虫灯によるアザミウマ類の 防除技術を紹介します！

香川県西讃農業改良普及センター

背景・課題

キク栽培においては、夏場にアザミウマ類の難防除害虫の発生が増加しています。また、化学合成農薬の散布回数が多いため、薬剤に対する抵抗性の発達も懸念されています。そこで、赤色防虫灯を用いることでアザミウマ類の植物への誘因を防ぐ環境にも優しい技術を紹介します。

防除のメカニズム

アザミウマ類は、紫外線～青色の光（波長 350～500nm）に強く誘引される性質があります。逆に、赤色光（波長 630nm 以上）にはほとんど反応せず、活動も鈍くなります。そこで日中に赤色 LED（主に波長 630～660nm）を点灯し、ハウス内を赤色光で満たすことによりアザミウマ類が好む紫外線や青色光が相対的に少なくなり、アザミウマ類が作物に引き寄せられにくくなります。

設置方法

防虫灯は半径 7.5m 照射できるため、ハウスの中央に設置し、植物全体に光が当たるようにします。防虫灯は延長ケーブルで連結し、単棟であればハウス「妻面」の中央、連棟であれば図 5 のように谷に設置します。有効照射範囲の限界に近づくと光が弱まるので、隣の防虫灯と光が重なるように設置します。



図 3 赤色 LED 防虫灯



図 4 連棟ハウス設置事例



図 1 花卉の被害痕



図 2 葉の被害痕

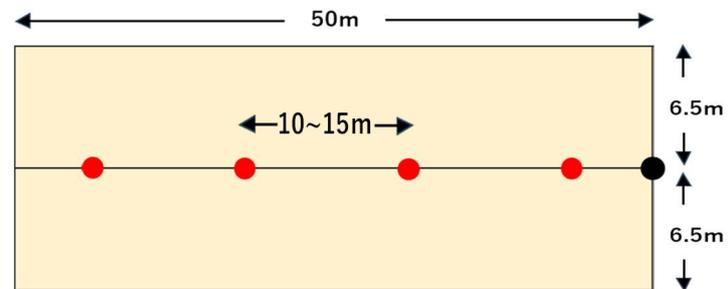


図 5 連棟ハウス設置図

● 電源
● 赤色防虫灯

注意点

- ・アザミウマの忌避を目的としているため、殺虫効果はありません。定植前に施設内と周辺の除草を行い、定植時から点灯を行う必要があります。
- ・キク栽培では、消灯後の夜間（シェード時間を含む）照射により開花遅延を引き起こすことから消灯後は日長時間に合わせて照射する必要があります。
- ・アザミウマ類の種類によって効果に差があるため、対象とするアザミウマの種類をできるだけ特定しておく必要があります。

※ハウスの大きさ等によって設置方法や効果が異なります。

導入を検討される場合は、香川県西讃農業改良普及センターまでご相談ください。

TEL : 0875-62-3075